

連携先世界遺産： 清水寺

清水寺の△△の〇〇(良い点)を磨け！もしくは□□(困っている点)を救え！

境内の魅力を再発見しそれを伸ばす、あるいは問題点を発見しその問題解決を図る、いずれにしても独自の視点で新しい課題を見つけ解決する

■受講生

井上悟郎 (立命館大学・理工学部・4回生)
 樋上真央 (同志社大学・グローバル地域文化学部・3回生)
 志村知恵 (京都女子大学・家政学部・3回生)
 山下遥香 (京都女子大学・現代社会学部・2回生)
 岡田紗季 (同志社大学・生命医科学部・2回生)
 岡村隆洋 (立命館大学・文学部・1回生)

■担当教員

宗本晋作、青柳憲昌、遠藤直久 (立命館大学・理工学部・教授、准教授、助手)

活動目的・概要

世界遺産・清水寺を対象に、お寺でもまだ気づいていない、時代を超え後世まで維持していくべき良い点は何か？逆にまだ気づいていない困りそうな点は何か？

未来の清水寺のために見つける課題は、良い点でも、困っている点でもよい。清水寺での講話やフィールドワークから良い点または困っているを発見し、良い点なら伸ばし、困っている点なら改善できるように考えてもらう。学生達が独自に発見し設定した課題を既成概念にとらわれることなく、創造性豊かに解決する提案を創造することを目的としている。

学生を2グループに分け、清水寺で講話を聞き実地調査を行った。グループごとに独自の視点で清水寺の良い点、もしくは困っている点を見つけてもらった。成果は成果物はホームページ等で公開し活用いただくことが目標として、森先生にもご参加頂き、議論と推敲を重ね、各々の提案に辿り着く。

例年通り、共同作業を経て、他大学の学生や理系文系の専門分野の異なる学生同士が、積極的な交流を図ることも目的の一つとしている。結果、初年度から続く受講生のOBOG会=清水寺ファンの定着に繋がっている。



◆主な活動

2021. 5. 30オリエンテーション

2020. 6. 06概要説明(森清顕先生の講話)、グループ分け、現地調査の指示課題・進行説明、自己PR、グループ分け

2020. 6. 20 青柳先生による清水寺の建築的視点と歴史の講義

2020. 7. 4各チームによる現地調査計画の発表、フィールドワーク

2020. 8. 22 草案批評1,各チームの発見した課題の発表とフィールドワーク

2020. 9. 09 草案批評2, 課題の発表とフィールドワーク

2020. 9. 10 草案批評3, 課題の発表とフィールドワーク

2020. 10. 03 草案批評4, 課題の発表とフィールドワーク

2020. 10. 17 森清顕先生への中間発表、講評頂き、提案の修正とより具体化の方針確認

2020. 11. 14 草案批評5, 課題の発表とフィールドワーク

2020. 11. 28 森清顕先生への成果物発表

2020. 12. 12 成果発表

活動の成果

清水寺での講話やフィールドワークを通じ、各グループの発見した問題解決のための着想をもとにそれぞれの提案をまとめました。清水寺の魅力を”無我”と”縁起”によって語るものや、手紙で観音様とより親密になろうというもの、子供を焦点に当てて修行という名のツアーを考えるものなど、オリジナリティ溢れる魅力的なアイデアを各々が試行錯誤して生み出しました。

音をまとう

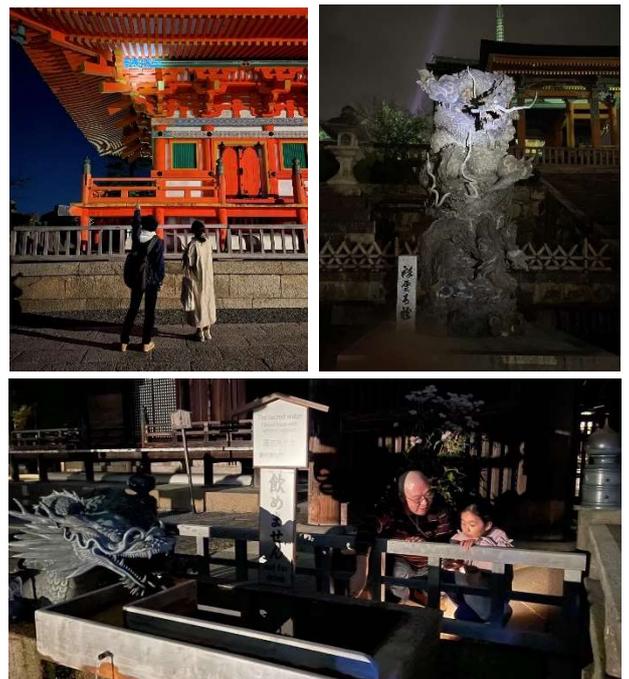
清水寺は、雨水の音や会話などの「日常の音」と、音羽の滝の水や鐘の音などの「非日常の音」が混在している場所です。日常と非日常の境界が曖昧な場所で音をまとうことで、観音様との繋がりを感ずることができるのではないかと考えました。

音羽の滝の水を使って、布に願い事や絵などを思い思いに書き、下駄に結びます。その下駄を履いて境内を歩くことで、カランコロンという下駄の音が清水寺の音となり、人々の記憶に刻まれます。下駄を持ち帰り日常生活でも履くことで、清水寺の音を思い起こす…。その体験は、清水寺で「音をまとう」ということであり、人々と清水寺のつながりを深めます。



清水寺でナイトサファリ

清水寺には、たくさんの『どうぶつ』がいます。建物・装飾に潜む彼らは、確かな観音様とのつながりのもとで、清水寺に暮らしています。そんな彼らに着目するために、私たちは夜の清水寺で『どうぶつ』を探す「ナイトサファリ」を提案します。他の物が夜の闇にかき消され、『どうぶつ』だけと向き合うことが出来る環境の中で、彼らを発見し、彼らと観音様との仏教的「つながり」を知る。私たちはこうした体験が『どうぶつ』をトリガーとして、清水寺の観音様、そして仏教と自分たちとの関係性を見つめ直すことにつながると、考えています。



活動を振り返って

- 世界遺産の清水寺でフィールドワークを重ね、チームで何かひとつのものを作り上げるという経験は、他では得難いものだったと思います。他大学の学生や先生方と活発な議論を交わすことで、充実した時間を過ごすことができました。また、本科目は森清顕さんから清水寺やその他の様々なことについて教えて頂ける貴重な機会でもありました。仲間と成果物を作り上げる過程を通じて、建築や製品など世の中にあるものの多くは、人の深い議論を経て生み出されているのだという視点を得ることができました。
- 最初、せっかく京都に来たのでなにか「京都らしい」ことを勉強してみたいと思い、軽い気持ちで履修登録しましたが、想像以上の授業でした。何を自分たちで問題意識として取り上げ、どう形にしていくのかというのは、これまで経験したことのない課題で、長い期間グループの中で案を詰めていく中で何度も苦しい思いもしましたが、その分ある程度アイデアが軌道に乗った瞬間には何とも言えない感動がありました。キツイときもありましたが、この授業でしかできない体験や出会いもたくさんあり、八か月という期間は長いようで一瞬でした。この授業で培った「自分で考える力」をこれからの人生の中で活かしていきたいと思います。
- 一緒に考え、考え、ひたすら考え抜いて—チーム全員が同じ深い場所で話し合いをした時のあの感覚は忘れられません。全員でこの場所に辿りつき、アイデアに磨きをかけることはそう簡単ではありませんでした。時には意見がぶつかり、前に進めないこともありましたが、お互いが納得できるまで話し、表現1つ1つに一切妥協することなくこだわり抜きました。こうした日々を過ごすなかで得られた仲間との関係性や、深く考え言葉を交わす経験、ストーリーとして成立させる構想力は、この先もずっと大切にしていきたいです。お世話になった先生方や先輩、そして一緒に走り抜けた仲間から心から感謝しています。ありがとうございました。
- 何か月もかけて話し合いを重ね多角的な視点から自分たちなりの答えを模索する、という非常に貴重な講義でした。所属大学や専門分野、学年が異なる学生同士での意見のすり合わせには苦労しましたが、対等に意見を交わすことで視野が広がり今までにない提案を生み出す面白さや、意見のブラッシュアップの場の重要性を学びました。また京都を代表する清水寺がテーマの講義ということでお寺側が理想とする「宗教施設としての在り方」と自分たちの提案が筋の通ったものになるように気を付けながら活動を行いました。清顕さんのご協力のもと行った実地調査はこの講義に参加したからこそ得られる特別な場で、忘れられない経験となりました。
- この授業に参加して本当によかったと思います。授業前に班で話し合い、授業で先生方と一時間近く課題について議論することで、丁寧に課題に取り組むことができました。また、同じ班になった2人が考えることは、驚きが多く、とても刺激がありました。そして、夜遅くまで電話で話し合ったり、朝早くに清水寺を訪れたり、特別に夜間拝観が終わってから入らせていただいたり、沢山の思い出ができました。この期間は大変なこともありましたが、とても楽しかったです。
- 私はこの授業で、様々な観点から清水寺を見ることによって、今まで気づかなかった清水寺の良さを発見し、それを提案にまでつなげていくことができました。また、自分とは違う分野を専攻している人々と議論していく中で、物事の意外なつながりを見つけるなど普段思いつかないようなアイデアが浮かび、刺激になりました。コロナ禍でのお寺のフィールドワークでは、人がいない時期と多くの人が訪れる時期のギャップを経験し、お寺の在り方を考えるきっかけにもなりました。この授業では本当に多くのことを学ぶことができました。ありがとうございます。

担当教員からのコメント

宗本晋作

課題の解決法と問題設定の組合せを学生自身で発見しなければならないため、最初の部分で手こずる学生は多い。しかしながら、苦戦しながらも見出した活路は、魅力ある新しい構想に繋がり、それを人に伝えようとする高い創作意欲になると信じ指導している。今回も学生たちの高い意欲を原動力に、授業時間後や時間外の長時間にわたる積極的な実地調査や議論により、期待以上の成果品ができたように思う。また学生たちの新鮮なアイデアを共にブラッシュアップしていく過程で、私自身も考えさせられ、共に学んでいる。

今年で6回目となった今回もまた、私自身にとっても大変実り多い経験となった。この背景には、森清顕先生をはじめとする清水寺の大きなサポートがあったことを特筆させて頂いた上で、今一度、同寺関係者の皆様には深く感謝を申し上げたい。

青柳憲昌

この課題は、清水寺について学生たちが感じた良さや現代的課題を発見し、それをもとに他の社寺にも適用できるモデルを提案してもらうというものです。

学生の皆さんは、この難しい課題に対して意欲的に取り組み、期待以上の成果ができたと思います。

現代の清水寺に何が求められているかを考え、魅力的なアイデアをたくさん提案してくれました。

また清水寺さんの援助とご助言のお陰でレベルの高い成果となったと思います。

遠藤直久

本年は、未だ続くパンデミックの脅威と混乱のなか我々にとって非常に厳しい生活であったと思います。その中、皆さんは意欲的に活動できていた有意義な機会でありました。困難な日常でありながら驚くべきことに学生さんたちは素直にとってもユニークな視点により、柔軟にアイデアを展開させ実施可能性を見せる提案をしています。受け容れるだけの学びではなく、自ら手応えを感じながら掴んでゆく学びに価値のあった時間となったと思います。学生たちにはこの課題を通して得た経験を、これからの社会活動や人生において必ず役に立つと信じています。我々にこのような機会を与えてくださった森清顕氏をはじめ関係者の方々から心より深謝いたします。

活動資料

2020.7.4 清水寺：森清顕先生による講話、境内案内



森先生より、清水寺の1200年以上に渡る伝統と文化を重んじる中での、今年度のテーマであった清水寺の近況、また近年の観光までの変化についてお話いただきました。その後、フィールドワークにて、清水寺に現存する文化財、サインのあり方や、観光客のマナーなど幅広く解説いただきました。

2020.9.10 清水寺：草案批評とフィールドワーク



各班員が持つ知識やインターネットの情報、森先生の話をもとに境内を散策し、どのような問題点または長所があるか探しました。

その内容の質を先生たちと高めていく過程=エスキスを体験し、作成することの大変さをこれから知ることになります。

2019.10.10 清水寺：森清顕先生への中間発表



今まで思考錯誤して育ててきたアイデアを森先生に途中経過として発表しました。各班、様々な方法による提案を行い森先生のエスキスを有意義に受けることができました。

案の方向性や質を高める方法などを話し合い、より具体的な形を掴む良い機会になりました。

2020.11.28 清水寺：最終発表に向けた準備



森先生に発表する最終成果物の最終エスキスの日でした。どの班も魅力的な案を持っており、あとは上手に伝えられるようにまとめる段階にありました。まずは来月森先生を納得させられるように最後のエスキスを真剣に聞き、修正箇所を綿密に探しました。